

目次

ご挨拶.....	2
プログラム	4
分科会.....	6
統合セッション	8
特別セッション	9
公式サイドイベント (シンポジウム)	10
公式サイドイベント (現地展示会)	12
公式サイドイベント (オンライン展示会)	14
熊本市のご紹介.....	15
第4回アジア・太平洋水サミット実施組織	16
協賛・支援団体一覧.....	17
会場案内・交通情報.....	18

ご挨拶



今年2月、国連の「気候変動に関する政府間パネル」第2作業部会が発表した第6次報告書の中で、「人間が原因の地球温暖化が広範囲に悪影響を与えている」と初めて明示されました。洪水や干ばつなどの異常気象、水不足と食糧危機、また生態系の危機、そしてエネルギー問題などが、人類の危機として強調されました。

これらは正に、アジア・太平洋水サミットが15年前から取り組んできた「水の安全保障」の問題にほかなりません。

2007年、私は、世界で初めてとなる水問題解決のためのサミットを、アジア太平洋地域を対象として、日本の大分県別府市で開催致しました。「気候変動の影響に「いかに適応するか」が世界で大きなテーマになろうとしている」と、私はその開会のご挨拶で申し上げました。そのことが今、現実になっているのです。

2019年、新型コロナウイルスのパンデミックが発生しました。現在もなお、世界はこの危機に直面しています。人類の歴史は感染症との闘いの歴史でもありました。過去も現在も、感染症と苦闘している保健、衛生、医療の現場を支えるのは「水」です。新型コロナウイルスの問題は、水と衛生の問題であると同時に、この危機の克服は、「人間の安全保障」の問題そのものであります。

人類はこれまで何度となく、干ばつ、水汚染、感染症のパンデミック、そして、洪水災害に直面してきました。アジア太平洋地域の私たちは、知恵や教訓を交換しながら、それらを克服するため努力して参りました。これからも、不断の努力を続けていくこととなります。

水は命の源です。水は地球を循環し、私たちの身体の中も循環しています。この水の循環の摂理が、私たち人類に改めて、何をすべきか問いかけているように思います。

先月、アフリカのセネガルで開催された「第9回世界水フォーラム」では、「平和と発展のための水の安全保障と衛生」に向けた行動が全世界に呼び掛けられました。

第4回アジア・太平洋水サミットで予定している議論や成果は、アジア太平洋地域が、他の地域との環境、経済、社会的なつながりの中で、水の安全保障を実現する具体的なアクションを導こうとするものです。

更には、来年3月に予定されている国連の「国際行動の10年、持続可能な開発のための水」中間レビューならびに国連水会議をはじめ、広く国際社会、全世界に向けて、この開催成果を発信していく予定です。

第4回アジア・太平洋水サミットにお集まりいただいた大統領閣下、首相閣下をはじめとする皆様に、改めて心から御礼を申し上げますとともに、この二日間を、「質の高い社会」に向かう実践と継承についての十分な議論と共有のチャンスとして、価値あるものとして頂けますよう祈念しております。

第4回アジア・太平洋水サミット合同実行委員会委員長
アジア・太平洋水フォーラム会長
元内閣総理大臣

森 喜朗

ご挨拶



第4回アジア・太平洋水サミットの開催にあたり、アジア太平洋地域の各国首脳、並びに国内外における関係機関の皆様のご参加を心から歓迎申し上げます。

一昨年より続く新型コロナウイルス感染症の影響により、一度は延期となりました本サミットを、このたび、対面・オンラインを併用した新たな形で開催出来ますことを大変嬉しく思いますとともに、開催にご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

地理的にアジア諸国に最も近い九州のほぼ中央に位置する本市は、熊本城に代表される歴史・文化、そして、「森の都」と称される豊かな緑を誇り、74万市民の生活水道水全てを清らかな地下水で賄う、世界的にも稀少な地下水都市です。

この恵まれた地下水を後世に確実に繋げるため、長年にわたり住民、事業者、行政が連携し、市域を越えた地下水保全の取組を進め、2013年の「国連“生命(いのち)の水”最優秀賞」受賞や本サミットの開催都市に選ばれるなど、世界的にも評価をいただいております。

これまでのサミットでは、アジア太平洋地域が抱える水問題への認識を深め、その課題解決を図ることを目的に、各国・各界のトップリーダーによる、安全な水や衛生の確保、更には洪水や渇水といった水関連災害リスクの低減などの様々な議論が交わされてまいりました。

そして、今回のサミットでは、「持続可能な発展のための水～実践と継承～」をテーマに、SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」の達成に深く関わる様々な水問題の解決に向けた取組が議論されます。

本市では、これまで進めてまいりました地下水保全の取組を世界に発信し、水問題に苦しむアジア太平洋地域の課題解決に寄与するとともに、2016年に発生した熊本地震から力強く復興した本市の姿を、皆様にご覧いただきたいと考えております。

さらに、本サミットの成果は「熊本宣言」として2023年に開催される「国連水会議」において世界に発信される予定であり、深刻化する世界の水問題の解決に繋げるべく、全力を尽くしてまいりますので、皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、改めまして、本サミットの開催にあたりご協力いただきました国内外の関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたします。

熊本市長

大西 一史

プログラム

1日目 4月23日(土)

	メインホール	大会議室 A1	大会議室 A2	大会議室 A3	シビック ホール	展示 ホール B	オンライン
9:00							
10:00	10:00-11:30 開会式	開会挨拶 森 喜朗 第4回アジア・太平洋水サミット合同実行委員会委員長 おことば 天皇陛下 ご挨拶 岸田文雄 内閣総理大臣 ご挨拶 アントニオ・グテーレス 国連事務総長 開催都市挨拶 大西一史 熊本市長 アジア・太平洋水フォーラムからの報告 ユースによるサミット開始宣言 記念講演 天皇陛下					
11:00							
12:00	昼 食						
13:00	12:50-15:20 首脳級会合 (各国ステートメント、 宣言とりまとめ・発表 等)				13:10-14:40 サイドイベント1 (シンポジウム) 海と 日本プロジェクト in くまもと		展示会 (オンライン)
14:00							
15:00					15:10-16:40 サイドイベント2 (シンポジウム) 九州 水フォーラム		
16:00	15:40-17:10 ハイレベル ステートメント	15:40-17:10 分科会1 水と災害 / 気候変動	15:40-17:10 分科会2 水供給	15:40-17:10 分科会3 水源から 海までの 水と環境		展示会 (現地)	
17:00							
18:00	17:30-19:00 特別セッション (ショーケース)	17:30-19:00 分科会4 水と貧困 / ジェンダー	17:30-19:00 分科会5 水と衛生 / 汚水管理	17:30-19:00 分科会6 ユースによる リーダーシップ、 イノベーション	17:10-18:40 サイドイベント3 (シンポジウム) 宇宙航空研究 開発機構 (JAXA)		
19:00							

2日目 4月24日(日)

	メインホール	大会議室 A1	大会議室 A2	大会議室 A3	シビック ホール	展示 ホール B	オンライン
9:00				9:00-10:30 特別セッション (島嶼国セッション)			
10:00							
11:00	11:00-12:30 ハイレベル ステートメント	11:00-12:30 分科会7 水と食料	11:00-12:30 分科会8 水と文化と 平和	11:00-12:30 分科会9 地下水を含む 健全な水循環	10:30-12:00 サイドイベント4 (シンポジウム) 国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所		
12:00							
13:00	昼 食				12:30-14:00 サイドイベント5 (シンポジウム) 「水の国くまもと」 シンポジウム 実行委員会		
14:00		14:00-15:30 統合 セッション1 科学技術	14:00-15:30 統合 セッション2 ガバナンス	14:00-15:30 統合 セッション3 ファイナンス		展示会 (現地)	展示会 (オンライン)
15:00					14:30-18:00 サイドイベント6 (シンポジウム) 林野庁		
16:00	16:00-17:30 総括統合セッション	コーヒーブレイク					
17:00							
18:00	18:00-18:35 閉会式	コーヒーブレイク					
19:00							

分科会

テーマ	タイトル	開催日時 / 部屋名	主催者名
分科会1 『水と災害 / 気候変動』	気候変動の下で持続可能でレジリエントな道筋に移行するための関係当事者全員によるエンドトゥエンドの努力	4月23日(土) 15:40-17:10 (大会議室A1)	【国内機関】ICHARM、水と災害ハイレベルパネル(HELP)事務局、文部科学省、環境省 【国際機関】ADB、GWP、IWMI、国際山岳開発センター(ICIMOD)、国際自然保護連合(IUCN)、太平洋共同体事務局(SPC)、UN-HABITAT、EC-IFAS
分科会2 『水供給』	すべての人の安全で安価な飲料水への普遍的かつ平等なアクセス	4月23日(土) 15:40-17:10 (大会議室A2)	【国内機関】国際協力機構(JICA) 【国際機関】ウォーター・インテグリティ・ネットワーク、UN-HABITAT
分科会3 『水源から海までの水と環境』	水源から海までの水と環境：持続可能な自然・社会環境のためのマルチレベルガバナンス	4月23日(土) 15:40-17:10 (大会議室A3)	【国内機関】土木研究所流域水環境研究グループ、国土交通省、リバーフロント研究所 【国際機関】GWP、ユネスコ アジア・太平洋地域科学局、EC-IFAS、IUCN
分科会4 『水と貧困 / ジェンダー』	貧困削減とジェンダー平等を加速させるための水セクターにおける科学と政策の協働	4月23日(土) 17:30-19:00 (大会議室A1)	【国内機関】東京大学未来ビジョン研究センター 【国際機関】GWP
分科会5 『水と衛生 / 污水管理』	持続可能な開発に寄与する適切な污水管理の実現に向けて	4月23日(土) 17:30-19:00 (大会議室A2)	【国内機関】日本サニテーションコンソーシアム、国土交通省、環境省 【国際機関】UN-HABITAT
分科会6 『ユースによるリーダーシップ、イノベーション』	アジア太平洋地域における水の安全保障とレジリエンスのための有意義な若者の参画 - 持続可能な成果のための世代間パートナーシップの構築	4月23日(土) 17:30-19:00 (大会議室A3)	【国内機関】ユース 水フォーラム九州、九州大学 【国際機関】ADB (Youth for Asia)、GWP
分科会7 『水と食料』	アジア地域の農業部門における持続可能な水管理	4月24日(日) 11:00-12:30 (大会議室A1)	【国内機関】農林水産省 【国際機関】IWMI、アラル海救済国際基金(EC-IFAS)、FAO、ADB
分科会8 『水と文化と平和』	水を通じた平和と地域の安定 - 歴史と文化から学ぶ -	4月24日(日) 11:00-12:30 (大会議室A2)	【国内機関】政策研究大学院大学(GRIPS) 【国際機関】ユネスコ、GWP
分科会9 『地下水を含む健全な水循環』	質の高い社会を構築するための健全な水循環の維持・回復	4月24日(日) 11:00-12:30 (大会議室A3)	【国内機関】熊本大学、内閣官房水循環政策本部事務局、国土交通省、熊本市 【国際機関】ユネスコアジア・太平洋地域科学局、国際地下水資源アセスメントセンター(IGRAC) ウォーター・スチュワードシップ・アジア・パシフィック(WSAP)

概要

気候変動によって激化する水災害は、人工的な環境や自然環境に直接的に影響を及ぼす。その影響は、水・食料・エネルギーとのネクサス、人々の生活の質（クオリティオブライフ）にも伝播し、貧困、健康、教育、労働とも密接に関係する。また、一度、社会がそのような状況に陥ると、ジェンダー、平等、平和などの分野でさらなる問題が発生する。我々世界は、新型コロナウイルスによるパンデミックを通じ、普段は社会・経済・環境システムに内包されている複雑で連鎖的・システマ的なリスクが、空間や時間の境界を越えて突然出現し、人類を脅かすことを既に学んでいる。

気候変動への適応は、環境、経済、社会、文化的・歴史的価値に対する気候変動の影響を科学的に評価することによって可能となる。この科学的な評価は、気候モデルの出力を水理・水文シミュレーション、予測・管理システムのインプットとして使用することによって可能となる。これらによる包括的な評価に基づいて、適応策が選択・実行されるべきである。このように講じられた施策はモニタリングされ、評価され、その結果は次の意思決定プロセスに反映される必要がある。すべての関係者当事者は、ジェンダー平等かつ社会的包摂のある方法でエンドトゥエンドの解決策を提供するため、科学技術、ガバナンス、ファイナンスの三つの分野で協調的・協力的行動を取ることが必要である。

本セッションでは、都市の水供給に焦点を当てる。SDG6.1では、2030年までに安全で安価な飲料水への普遍的かつ公平なアクセスを達成するという世界的な目標が設定されている。この目標を達成するためには、単にアクセスを拡大するだけでなく、水供給の強靱性、包括性、持続可能性を確保することが重要である。本セッションでは、「科学技術」「ガバナンス」「ファイナンス」の3つの重要なテーマについて議論する。

科学技術については、水サービスや管理の状況を可視化するパフォーマンス指標の活用、DX技術の活用、画期的な技術の開発、技術を活用するための機関の能力開発の必要性などについて議論する。

ガバナンスについては、都市の発展に伴い都市の水ガバナンスを改善し、インフォーマル居住区を含むすべての人が安全、安価、信頼性の高い水サービスを受けられるようにする方法について議論する。

ファイナンスについては、水事業の健全な経営が資金を効果的に開発の利益に転換するための前提条件であること、民間資本を動員し財務の持続可能性を発展させるために水事業の経営を改善することの重要性について議論する。

本セッションでは、キーノートスピーカーと3カ国からの発表者を招き、SDG6.1の達成に必要な原則を理解し、今後の都市水道の具体的な行動とグッドプラクティスについて議論する。

水と環境の安全保障は、自然の持続可能性と人間の幸福に深く結びついている。しかし、アジア太平洋地域では、気候変動、生態系の劣化、予測不可能な病気、人工的な汚染、不公平なガバナンスなど、人間活動がもたらす負の影響によって、水を取り巻く環境が脅かされつつある。そのため、水と環境のシステムを回復し、適切な管理を促進することが極めて重要である。私たちは今、未来を見据えた生態系の保全という重要な局面に立たされている。

次世代の生活、ビジネス、文化の持続可能性のためには、水と環境の関連性を理解し、人間が管理する水管理に自然を基盤とした戦略を適用することが最も重要である。特にアジア太平洋地域に住む私たちは、すべてのステークホルダーを対象としたマルチレベルのガバナンスを通じて、水源から海までの自然・社会的な「水と環境」を総合的に保全する責任を負っている。

本分科会は、その教訓を互いに交換し、合理的で実現可能なアプローチを見つけ出し、長期的なアクションに取り組むための舞台となる。経済発展と環境保全のコロナ禍からの復興、官民の連携、地域・国内・国際各レベルのステークホルダーの協力、継続的かつ総合的な生物調査を含む流域環境管理システム、グリーンインフラの促進について議論する。

持続可能な水ガバナンスを実現するためには、貧困やジェンダーと水との間の相互関係の包括的理解が鍵となる。本セッションでは、社会経済的に脆弱な人々の生活改善に貢献する水災害リスク軽減やジェンダー改善、水衛生についてのアジア太平洋地域での先端的事例を紹介するとともに、持続的な開発に向けた実践的な政策策定や介入について議論する。具体的には、水分野における貧困やジェンダーの問題に取り組むパラデニア大学（スリランカ）やシドニー工科大学、東京大学の研究者やGWPの南アジア・東南アジア地域チームなどによるケーススタディを紹介する。そして、それらを踏まえてアジア各国からのパネリストが、貧困削減とジェンダー平等を推進するための優先的政策について議論し提言する。特に、科学的根拠に基づき貧困と長期的な水災害リスクの軽減を両立する気候適応策や、ジェンダー平等を推進するための4つの行動領域（組織のリーダーシップとコミットメント、変化を促すジェンダー視点の包含と分析、意思決定とパートナーシップにおける意味ある包括的参加、資源への平等なアクセスとコントロール）について議論を深める。

SDGs6.3では、「2030年までに未処理汚水の半減」が目標設定された。

特にアジア太平洋地域は都市化により水質汚染が進んでいる一方で、排水処理施設の普及率が低いため、未処理汚水の割合を減らす一層の取り組みが必要である。このセッションでは、気候変動や新型コロナウイルス感染の世界的流行による世界、特にアジア太平洋地域の最近の状況を踏まえ、持続可能な開発に貢献し、2030年までにSDGsの達成に寄与する污水管理に焦点を当てる。主目的は、アジア太平洋地域の政府が地域の特性を踏まえて取り組むべき方策（予算、法制度、技術基準など）を連携して進める契機とすることである。

国連SDGs（持続可能な開発目標）などの開発目標を達成する上で、若者は重要なアクターであると認識されている。水の分野では、若者主導の取り組みとして、仲間やコミュニティに焦点を当てた水問題に関する教育や行動変革、清掃などの水管理実践、イノベーション、研究、政策提言などが挙げられる。有意義な若者の参画は、若者のためにではなく、若者を「自分たちが直面する課題の専門家」として重視し、それは開発において意義深い貢献をもたらすことになる。若者と大人は、共有価値のパートナーシップとして協力することが大切であり、それによって、専門知識や経験を共有し、両方双方の価値を創り出し、共通の目標と共同の責任感や共有する意思決定を保持し、しっかりとした信頼・尊敬・互恵性の上にパートナーシップを構築することになるのである。

本セッションでは、あらゆるレベルにおける有意義な世代間パートナーシップのあり方について洞察し、アジア太平洋地域における水の安全保障とレジリエンスのために、どのように強化していくことができるかを議論する。

本セッションでは、SDG6.4に関して、東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジアにおける農業（灌漑）における生産的あるいは効率的で包括的な水利用を増やすための正しい技術と、これらの地域での活動やその成果、得られた学習を通じて紹介し、促進する。また、SDG7.2「小規模水力発電や太陽光発電を活用した再生可能エネルギーへの転換」、SDG13.1「気候関連災害や自然災害に対する回復力・適応力の強化」やSDG2.4「適切な農業水管理」といった他のSDGsとの有効な結びつきを明らかにする。

国際水路の平和は、水問題と密接に関係している。水は人々の生命と生活の基盤であり、環境にとって重要な要素であるため、水の過剰摂取・不足・汚染は、リーダー、政治家、外交官、利害関係者、市民にとって大きな関心事となっている。特に、水が極限状態にあるとき、こうした懸念や意識は高まる。

国際的な水路における洪水、干ばつ、水質汚染などの水災害は、国家間の緊張につながる可能性がある。同時に、水災害は、水利組合が重要な情報を共有し、被災国を支援することによって、水利組合間の平和を促進する機会にもなり得る。国や関係者が共同で水危機を克服することで、長期的に持続可能な解決とより良い関係が期待できる。しかし、水危機を通じた平和は自然に実現するものではない。国や人々、すべての関係者は、水危機に直面する前、最中、及び、水危機に直面した後には平和を構築するための備えを行い、行動をとる必要がある。

水は古代文明時代から人類と密接な関係にあったため、水を通じた平和と協力を促進する過程では、河岸の国々の人々と水の文化的・歴史的関係を尊重することが不可欠である。水は、健康、食糧、エネルギー、災害、環境など、人間の生存に関わる重要な分野で人間と関わりを持ってきた。そのため、人と水との関わりは、単に物理的なものだけではなく、感情的、哲学的、さらには精神的なものであり、人々の考え方や信条にも影響を及ぼしている。

このセッションでは、水を共有する人々の交流の歴史や、人と水との関係から教訓を学ぶことを目的としている。このセッションで得られた教訓は、誰一人取り残さない、横断的で持続可能な開発と地域の平和に向けた、より良い道筋を作るための手がかりとなるだろう。

我々が利用可能な水資源は絶えず「循環する水」の一部であり、「健全な水循環」を維持することが持続可能性、包摂性、強靱性を有する質の高い社会を築く上で極めて重要である。

アジア太平洋地域においては、これまで水質汚染、渇水、洪水、地下水の枯渇、地盤沈下など、地下水を含む水循環に関する深刻な課題に対し、関係者により一定の取組がなされてきたものの、依然として多くの課題が残されている。また、気候変動の影響によって渇水や洪水のリスクが高まることが懸念されている一方、水分野においても水力発電等の再生可能エネルギーの活用による緩和策への貢献が期待されている。

地下水を含む水循環に関わる施策については、多様な主体により幅広い分野に及び施策が個々の地域ごとに別々に講じられてきたが、これからは科学技術の知見を基盤にステークホルダー間で「健全な水循環の維持または回復」という目標を共有し、水循環に関係するエリア単位でこれら個別の施策を相互に連携・調整しながら進めていくことが重要である。

本分科会では、アジア太平洋地域における水循環の現状・地域特性を踏まえた上で、地下水を含む健全な水循環の維持または回復に向けた、ガバナンス、ファイナンス、科学技術に関する知見を共有し、質の高い社会に向け、今後、アジア太平洋地域各国が取り組むべき具体的な行動の提言を行う。

統合セッション

タイトル	開催日時 / 部屋名	概要
統合セッション1 科学技術	4月24日(日) 14:00-15:30 (大会議室 A1)	持続可能な開発目標を定めた国連の2030アジェンダの前文には、「我々は、世界を持続可能でレジリエントな道筋に移行させるために緊急に必要とされる大胆かつ変革的な手段を踏むことを決意する」と記されている。約半世紀前、私たちは人間の活動が地球の能力の限界に達していることを認識し始めた。その実感が、科学技術を進歩させ、より高度な科学技術に裏打ちされた国際協力のスキームを構築する動機となった。 観測システムや数値モデルの大幅な改良に伴い、データや情報は爆発的に増大し、流通速度も速くなった。その一方、多様性や正確性に関する問題にも対処する必要性が生じている。このような課題を克服するためには、急成長する情報科学技術の流れの中で、水と気候分野の連携の下、水に関する諸問題を解釈し、解決していくような科学技術の分野間協働を確立することが必要である。また、ステークホルダーと科学者の双方向のコミュニケーションを促進し、データや情報を感じ、受け取り、共有し、経験や知識、アイデアを交換し、協力を促すことによって社会的利益を生み出すために、科学と社会の間の協働を促進することが必要である。また、これらのことは、人材育成にも反映されるべきものである。
統合セッション2 ガバナンス 水関連 SDGs を達成するため、分野・世代を跨ぐ全ての関係者との協働を促進する	4月24日(日) 14:00-15:30 (大会議室 A2)	水災害リスク管理を含む水管理及び水サービスのガバナンスは、意思決定、政策形成、共同活動の全ての段階において、産・官・NGO など多様な関係者が様々なレベルでの参画を必要とする課題である。水に関する政策は、健康、環境、農業、エネルギー、計画、地域開発そして貧困撲滅といった私たちにとって極めて重要な領域と深く関係し複雑なものとなっている。 水ガバナンスは、異なるレベルにおいて水資源を開発・管理し、水サービスを実施するために必要な政治、社会、経済及び行政システム全てを包含するものであり、水が総合的に管理されるためには、複数の分野にまたがる多層レベルの協調と総合的な取組みを強く求めている。持続可能な開発目標(SDGs)に記載のある統合水資源管理(IWRM)は、世界、地域、国、流域のそれぞれのスケールにおける水ガバナンスを計測する手段であるのみならず、水の安全を向上する枠組みを提供するプロセスである。 このセッションでは、アジア水開発展望2020やSDGsを含む鍵となる水ガバナンスの流れを振り返るとともに、9つの分科会の見解を統合し、IWRMの4つの視点から水ガバナンスの改善について議論を深め、本サミットにおける提言の取りまとめをリードする。
統合セッション3 ファイナンス ポストコロナ後の世界において、水関連の国際目標達成のためにどのように投資を最大化するか	4月24日(日) 14:00-15:30 (大会議室 A3)	水は人間の生命、人間の安全保障、環境、経済を維持する上で不可欠であり、持続可能な開発の中核をなすものである。しかしながら、SDG6、SDG13、仙台防災枠組など、国際的に合意されたゴール、ターゲットの進捗については、新型コロナウイルスの世界的流行以前から、遅れが指摘されている。 この遅れの主要因の一つが資金不足である。世界銀行の推計では、SDG6.1(安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセス)及びSDG6.2(適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセス)の達成だけでも、必要な投資額とのギャップを埋めるために年間1140億米ドルが必要と推計され、また、持続可能な水資源管理のための投資ギャップについては推計すらできないなど、大きな投資ギャップがあることが指摘されている。また、防災に関する投資については、人道援助のわずか4%程度しか事前の防災対策に使われておらず、多くは被災後の緊急対応や復旧・復興にあてられている。 本セッションでは、各テーマ別セッションからの提言やアジア太平洋地域における水資源管理、水サービスの提供、防災対策に関する好事例を統合し、どのようにして i) 政府部門、ii) 民間部門を最大化できるか、また、どのように i) と ii) を効率的に組み合わせることができるかについて議論し、とりまとめることを予定している。
総括統合セッション 水を通じてより良いポストコロナ世界を築く ー熊本から世界へ、未来へー	4月24日(日) 16:00-17:30 (メインホール)	第4回アジア・太平洋水サミットの総括統合セッションは、サミットの熊本宣言において、参加首脳から問われた質問に対する明確な回答を導き出すために、「ガバナンス」、「ファイナンス」、「科学技術」の三つの統合セッションからのメッセージと提言を統合するために開催するものである。また、アジア・太平洋水サミット前後に開催されるボン会議、第9回世界水フォーラム、2022ドゥシャンベプロセスにおける議論と成果と協調しながら、2023年に共通するメッセージを2023年「国連水の行動10年中間レビュー会議(以下、2023年中間レビュー会議)」に持ち込んでいくことを特に視野に入れた議論を行う予定となっている。 第4回アジア・太平洋水サミットは、2023年中間レビュー会議の重要な準備プロセスの一つであり、協働、パートナーシップ、それらを可能とする環境、ユース等を通じて、このプロセスが水に関する国際合意の達成に向けたあらゆる関係者による行動を加速することが期待されている。本サミットは、国連2023年中間レビュー会議に向けた有効な機会となり、よりよい変化のきっかけを与えるものとなることを目指す。 サミットでは、持続可能な開発目標(SDGs)の完全な達成に向けて水が果たすべき変化をもたらす(Transformative)という役割や、レジリエントで持続可能かつあらゆる人が参加するポストコロナの社会の構築について議論される予定である。九つのテーマ別分科会では、ガバナンスの改善、ファイナンス、科学技術のローカル、国、グローバルレベルでの統合的な適用のための具体的な方策が議論や成果の中心テーマとなる。そして、仙台防災枠組、水関連SDGs、そしてパリ協定のコンセプトや議論をリンクさせるだけでなく、それらの実施に向けた具体的な行動を緊密に連携させるための方法が示されるであろう。議論の中心課題の一つは、国連2023年中間レビュー会議のビジョンステートメントに示されているように、「我々の声をあらゆる水関連分野に届けるためには何をすべきか?」ということである。本統合セッションの成果は、九つのテーマ別分科会と三つのクロスカッティングな統合セッションを統括する成果として、熊本宣言に反映されるとともに、その一部となる。

特別セッション

タイトル	開催日時 / 部屋名	概要
ショーケース	4月23日(土) 17:30-19:00 (メインホール)	水は人々の生存とウェルビーイングにとって非常に重要である。水は、大気－海洋－陸域に関する自然科学と、農業、森林、健康、エネルギー、経済、居住を含む社会経済便益の両分野に関わる課題である。アジア、太平洋において水課題は深刻である。洪水や渇水の予測および警戒システムの整備が急務である。生存のために水資源開発が、人々の健康のために良好な水質が必須である。気候変動はアジア、太平洋において脅威となっている。新型コロナウイルスによるパンデミックが、空間や時間の境界を越えて人類を脅かしている。 現場のステークホルダー（関係当事者）は、科学技術コミュニティと分野を超えた対話を通して水がもたらす利益とリスクの理解を共有し、地域や伝統的な知識に加え、地球規模のモニタリングや予測を公共財として最大限に活用して、統合的なシナリオを開発し、対策を実行すべきである。また、議論の進行役を務め、問題を解決の方向に導き、現場で専門的な助言を行う触媒的な人材の育成も重要である。様々な空間スケール、主題や機能の面で、科学、政策、運用の3者の協力が不可欠である。 この特別セッションでは、都市～国のスケールの4つの事例を教訓として共有する。
島嶼国セッション	4月24日(日) 9:00-10:30 (大会議室 A3)	小島嶼国は、その地理的・気候の特徴から、多くの固有の課題を抱えているが、アジア・太平洋水サミットの対象国49か国のうちの四分の一を太平洋の小島嶼国が占めており、アジア・太平洋地域の水問題を議論するうえで、小島嶼国固有の問題に焦点を当てた議論は非常に重要であると考えられる。実際に、2007年に開催された第一回アジア・太平洋水サミットでは小島嶼国の首脳級による「水と気候に関する小島嶼国対話」が実施された。 第4回アジア・太平洋水サミットへの各国首脳の招聘のための説明会や個別協議の場においても、小島嶼国の代表より、その特有の問題の重要性やそれによる脆弱性などが指摘され、本サミットを太平洋島嶼国の課題を世界に訴えていく機会と捉えているという発言も多く見られた。同時に同地域においてリーダーシップを発揮しているオーストラリアとの協議においても、太平洋島嶼国の問題に対する取り組みの重要性が強調されている。 本提案は、第4回アジア・太平洋水サミットにおいて、「島嶼国特別セッション」を開催し、島嶼国特有の水・衛生問題や気候変動による災害への脆弱性について議論することで、小島嶼国発展途上国における仙台枠組み条約、持続可能な開発目標、パリ協定の実施と目標達成に向けた共通の課題や今後の取り組み指針について有機的な議論することを目的とする。また、本セッションの開催によって、太平洋諸国からの首脳級の参加を促すことも目的としている。 議論の成果は、サミットの成果文書に反映されるとともに、2023年の国連水の行動10年中間評価国際会議、2024年の第4回小島嶼開発途上国(SIDS)国際会議の開催を見据え、本年5月にパリで開催される「第7回防災グローバルプラットフォーム」、9月にブリスベンでの開催が予定されている「アジア・太平洋災害リスク軽減閣僚会議(Asia-Pacific Ministerial Conference on Disaster Risk Reduction)」、水の行動10年、仙台枠組み条約、持続可能な開発目標の各中間評価や各締約国会議等にインプットしていく。

公式サイドイベント（シンポジウム）

4月23日（土）会場：2階 シビックホール

時間	プログラムタイトル	主催者
13:10-14:40	熊本の小学生から世界に発信！ ～海洋ごみをゼロにするために～	海と日本プロジェクト in くまもと
15:10-16:40	アジア・太平洋のなかでの九州 ー水でつながる人たちが語り合う水との持続可能な暮らし	九州水フォーラム
17:10-18:40	宇宙技術による水問題対策への貢献	宇宙航空研究開発機構（JAXA）

4月24日（日）会場：2階 シビックホール

時間	プログラムタイトル	主催者
10:30-12:00	あなたにもできる流域治水フォーラム in くまもと ～激甚化する水災害に備えた 「まちづくり・ひとづくり」～	国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所
12:30-14:00	「水の国くまもと」シンポジウム ～熊本地域における地下水保全の取組み～	「水の国くまもと」シンポジウム 実行委員会
14:30-18:00	水インフラに寄与する森林の役割について	林野庁

イベントの概要

熊本は地下水の恵みを享受しているとともに、豊かな海に生活を支えられています。しかし、世界的に海洋ごみの問題が叫ばれており、熊本の海も例外ではありません。海洋ごみの多くは、街で生活する人間が廃棄したものが川を伝って海に流失しているものと考えられています。特にマイクロプラスチック化したものは回収が不可能であり、生態系への影響も懸念されています。これらの問題について、小学生が学習してきた成果を世界に発信し、海洋ごみをゼロにするための提言を行います。

水の持続可能な活用や環境保全のためには、多様な人たちの継続的な取り組みが必要である。九州は、自然に恵まれた地域で、歴史文化的にも人々は豊かに暮らしてきた。

水の健全性を守り、水災を克服し、社会の仕組みづくりを、多世代の多様な人たちが協働しながら、継続的に進めてきた。近年はSDGsの観点から、九州からの地球規模での取り組みも必要になっている。

今回は、アジア・太平洋のなかでの九州の視点で、地域、国内、世界をむすんで、水でつながる人たちが語り合い、水との持続可能な暮らしを意識的に形成していく。

アジア太平洋地域は、水災害を中心にした気候変動に脆弱である。この水災害の被害を低減するには、タイムリーな観測による現況把握に加えて、短期の気象予測から長期の気候変動予測まで、予測能力を上げて対応していくことが課題である。このために、JAXAが主催し、関係する国内外機関の協力を得て、この課題に関する議論を推進すべく、サイドイベントを開催する。

イベントの概要

近年の地球温暖化に伴い、日本をはじめ世界各地で頻発している水災害の実態について学ぶ。また、住民の視点で九州における水災害の経験、反省、今後の取り組みについて意見交換を行うことで、地域住民等の水防災意識の向上を図る。

熊本市とその周辺市町村は、生活用水のほぼ100%を地下水でまかなっています。なぜ、これほど地下水が豊かなのか、熊本県特有の水循環の仕組みをご説明するとともに、大切な地下水の恵みを将来に渡って守り続けていくために行っている、県民・民間・行政が一体となった地下水保全の取り組みをご紹介します。

第4回アジア・太平洋水サミットは、地下水保全について幅広い施策を推進している熊本市を開催地として、「持続可能な発展のための水～実践と継承～（Water for Sustainable Development - Best Practices and the Next Generation -）」をテーマに開催されます。熊本市では森林整備による水源涵養機能の持続的な発揮に向けた取組も進められており、また、令和2年度に改訂された政府の新たな「水循環基本計画」においては、「水源涵養機能をはじめとする多面的機能を持続的に発揮させるための森林の整備及び保全を進める」旨が記載されているところです。そこで、本シンポジウムでは、水インフラに寄与する重要な要素である森林に着目し、森林の果たす役割や機能について最新の知見も交えて講演・事例紹介等を行い、森林の重要性についての理解を深めるとともに、森林の整備・保全に向けた機運の醸成を図ります。

公式サイドイベント（現地展示会）

会場：1階 展示ホールB

エリア	No	出展者名	テーマ
インフラシステム／テクノロジー	1	国土交通省 九州地方整備局	九州地域と水
	2	大成建設株式会社	大成建設の水インフラ事業に関する取組
	3	国土交通省 / 独立行政法人水資源機構	持続可能な水資源管理とダム再生事業への支援
	4	次世代のためにがんばる会 & 国土交通省 八代河川国道事務所	球磨川流域の歴史・環境と令和2年7月球磨川豪雨災害について
	5	スマートエナジー熊本株式会社	スマートエナジー熊本の地域エネルギー事業
	6	一般社団法人 全国さく井協会 九州支部	災害時における水の備え
	7	株式会社テクアノーツ（飛島建設グループ）	水草除去船を用いた水域環境保全への取組み
	8	アズマソーラー株式会社	熊本から世界へ 太陽熱で安全な水をお届けします。
	9	国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所	荒川下流域におけるデジタルとグリーンによる流域治水の取り組み
	10	SIP「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」	SIP 国家レジリエンスが拓く安全で安心な社会
くまもとの自然	11	公益財団法人熊本市上下水道サービス公社	世界の水と熊本の水の飲み比べ
	12	阿蘇ユネスコ世界ジオパーク	阿蘇の破局噴火が育んだ熊本の水
	13	白川中流域土地改良区協議会 / 豊かな地下水を育むネットワーク	～白川中流域の水田が、熊本地域の地下水を育みます～
	14	水と緑ワーキンググループ	益城の冬水田んぼとサントリーホールディングス株式会社の水の国応援プロジェクト
	15	NPO法人くまもと未来ネット / 有機無農薬の百草園	生命と水を守るオーガニック農業を持続可能にするために～私たちにできることは？～
未来への継承	16	NPO法人ディスカバリーくまもと	次世代へ継承「世界に熊本の魅力を発信！～熊本の地下水」
	17	国立大学法人熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター	水循環を核とした研究と熊本の発展に向けた取り組みの紹介
	18	ユース水フォーラムくまもと	ユース水フォーラムくまもとの高校生たちが作成した応募動画や、これまでの活動内容の紹介
	19	ユース水フォーラム・九州	ユース水フォーラム・九州の応募動画や活動内容の紹介
世界／宇宙から見た水問題	20	台北駐日経済文化代表処・台湾屏東県政府	持続可能な伏流水——台湾地下ダム「二峰圳」
	21	宇宙航空研究開発機構（JAXA）	宇宙技術による水問題対策への貢献
文化・研究／サステナビリティ	22	八坂かっぱクラブ（大分県）	大分ん水の仲間を見ちゃくれ！
	23	滋賀県	琵琶湖の水環境を守る滋賀県の取組
	24	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社	コカ・コーラシステムが取り組む「水資源保護活動」と「廃棄物ゼロ社会」
	25	ミツカン水の文化センター	「水に感謝し、水の大切さを伝える」ミツカン水の文化センター

概要

九州地域における「水循環」「水の効率的利用」「水環境」「治水」などの水に関する取り組みについて、パネル展示を行い、意識啓発や情報発信を行います。

大成建設は、1873年の創業以来、建設技術を駆使して国内外の基礎作りに貢献してきました。今後、ゼネコンが世界での活路を求める上では、海外の水インフラ事業への参画やPPP事業の展開が不可欠と考えています。今回は、水に関する4つの技術の他、熊本県内の建築・土木施工実績を紹介し、また、新阿蘇大橋施工記録、津波解析、ボスボラス海峡トンネルの動画も再生します。

アジア諸国では、都市化などに伴う水需要増加といった従来型のニーズに加え、「気候変動」「既存施設の機能低下」など、水資源管理におけるリスクが増大しています。これら課題への効果的対策として、既存ダム・貯水池の能力を最大限に発揮させる「ダム再生プロジェクト」を提案します。併せて、ダム再生や統合水資源管理に関する日本国内の実績や、海外への技術支援も紹介します。

河川管理者や地域の方と連携し、①球磨川下流域の歴史について②球磨川下流域の環境について③令和2年7月球磨川豪雨災害について④市民と連携した川づくりについてパネル展示や高校生による発表会を行いますので、是非お越し下さい。

当社は熊本市の東西2か所のごみ焼却施設で発電されるカーボンフリーの地産電力を熊本市公共施設にて地消すること、市公共施設における電力の利用を最適化すること、そして熊本市の防災力を向上させることを目的に、JFEエンジニアリングと熊本市により設立されました。エネルギーや環境分野における総合エンジニアリング事業を展開するJFEエンジニアリングが持つ高い技術力を基盤とした地域エネルギー会社です。

災害時に最も困る、大量のきれいな生活用水の確保のために熊本の豊富な地下水を利用した、災害時の停電でも大丈夫な手動式ポンプを備えた防災井戸システム

鹿児島県薩摩郡の鶴田ダムにて、3ヶ年に渡って行った「鶴田ダム緊急水面清掃工事」の外來種排除による水域環境改善への取り組みを中心に、奥日光湿原(湯の湖)・彦根市旧港湾等での希少種・絶滅危惧種の保護・再生、刈取った水草の再資源化、本技術の海外輸出実績(ODA・マラウイ共和国/JICA・インドネシア)などについて紹介させていただきます。

これまでの太陽熱温水器の機能に加え、太陽熱エネルギーで純水(蒸留水)が生成出来ます。飲用水と給湯用温水を同時に採取出来る商品です。雨水や河川水からも生成出来ますので、災害時やインフラ設備の未発達な海外諸国での飲用水の確保にも活躍出来ます。

荒川下流河川事務所は、デジタルとグリーンによる流域治水を推進することでSDGs達成に貢献し、荒川下流域の関係者のウェルビーイングな状態の変容を目指している。3D洪水ハザードマップや3D河川管内図の公開による河川管理のDX、ミズベ・グリーンコミュニティ構築の促進によるグリーンインフラの展開など、我が国におけるマルチステークホルダーパートナーシップによる流域治水の事例を紹介する。

大規模災害時のSociety 5.0の構築を目標とする、国家のレジリエンスを高めるSIP新技術の研究開発の中から、激甚化する風水害における災害対応オペレーションを支援する、「非常時地下水利用システム」と「市町村の避難判断を支援するシステム」を展示・紹介します。

熊本の水を含む国内外の水数種類を各々試飲してもらい、水道水源となる熊本の地下水の美味しさや素晴らしいさをPRするもの

阿蘇の原型は、過去4回の破局噴火によりつくられました。そして噴火によって発生した火砕流は、九州北部を覆い、海を超えて山口県まで到達しています。おそらく当時の地球環境を一変させたことでしょう。しかし、この破局噴火こそが、阿蘇や熊本の大地をつくり、豊富な地下水の源となっています。このブースでは、阿蘇の観光スポットと熊本の地下水の意外な関係について紹介します。

熊本の地下水を育む白川中流域の水田。
白川中流域(大津町、菊陽町)にある水田は、他の地域にくらべると5倍以上も水がしみ込みやすく、たくさんの地下水が生まれます。

熊本地域(阿蘇西麓台地から有明海にかけての11市町村)の約100万人は、同一水源の地下水を生活用水として共有しています。地下水保全の取り組みは、自治区を超えた多くの関係者による活動です。ここでは、2010年から益城町津森地区においてサントリーさんと地元の農家さんたちが取り組んできた冬水田んぼと、2016年4月のサントリーさんによる震災後の田んぼの復旧と、創造的復興についてご紹介しします。

地下水を蓄える要素として、水田農業は突出しています。
そこで、地下水の流れ(軌跡図)の上に、農家数をシールで示し、さらに、農畜産物を購入できる店舗を別のシールで表現し、貼付します。
会場は来場者参加型にし、一緒に、持続可能な農業と「水循環」を考えたいと思います。
また、近年問題になっているマイクロプラスチックが農業にどのように影響しているか、みなさんに考えるきっかけにいただければと思います。

地元の小学生とその保護者が、熊本の地下水や江津湖について、世界に発信するため英語でプレゼンテーションを行う。(実演 日本語解説あり)昨年の夏休みに実施した次世代育成事業「子ども英語でボランティアガイド養成講座」の様子を写真展示と映像で紹介。その他、世界に誇れる、緑に囲まれた熊本の歴史的名所も映像で紹介する。

くまもと水循環・減災研究教育センターを中心にして、熊本大学の「水と自然環境に関係する研究・教育」および「熊本の発展に向けた取り組み」を紹介しします。

ポスターやチラシ、実物展示、モニターでコンテンツ上映をいたします。

ユース水フォーラム・九州への動画応募作品を上映します。作品応募高校希望校による活動報告プレゼン発表や、作品を展示します。海外の同世代のユースとのオンラインディスカッションも検討中です。

二峰圳は台湾の屏東県に位置し、1921年(大正10年)に着工、1923年(大正12年)に竣工した。自然環境と水の性質を利用するべく持続可能な地下堰工法を採用したもので、現地の乾季の水不足問題を解決しただけでなく、100年近く途切れることなく水を供給し続け、近辺の村を潤している。展示会には二峰圳の地理的位置、建設背景、構造、修復・保守と文化保全などを紹介する。

地球規模の水に関わる課題解決に向け、宇宙航空研究開発機構(JAXA)では様々な人工衛星を開発・運用しています。展示では、JAXAの人工衛星や、宇宙から地球を観測することでどのような情報が得られるかを紹介します。また、人工衛星によって観測された水に関する情報が、農業・防災・気象などの様々な分野で役立てられている具体的な活用事例も紹介します。

2007年12月大分県別府市で第1回アジア・太平洋水サミットが開催された。今14年を経て、度重なる災害にも県民、企業、行政が一体となって復興に取り組んできたが、天然資源の減少や少子高齢化に伴う山野の荒廃等が危惧されている。その中でSDGsの実現を目指し、地元の水環境を保全すべく、地域で活動続ける団体の様子を紹介する。

滋賀県には、日本で一番大きな湖である琵琶湖があり、行政、県民、研究者、企業等が一体となってその水環境の保全・再生に取り組んできた。
本ブースでは琵琶湖と、これらの県民一体となった取組について以下の3つのテーマで展示を行う。
①琵琶湖の水環境保全の取組と琵琶湖版のSDGsであるマザーレイクゴールズ(MLGs)の紹介
②琵琶湖と滋賀の自然環境の紹介
③琵琶湖周辺で育まれた滋賀県の水環境ビジネスの紹介

・サステナブルフレームワーク
・水資源保護活動
・World Without Waste

創業以来、「水」の恩恵を受け、「水」によって育てられてきたミツカングループが、1999年に設立した、「水」をテーマとする社会貢献活動「ミツカン水の文化センター」。その活動を、21年度に発行した機関誌『熊本』『北海道東川町』『Z世代』特集号を具体例として紹介し、水の大切さや水への感謝の気持ちを抱くきっかけづくりを目指します。

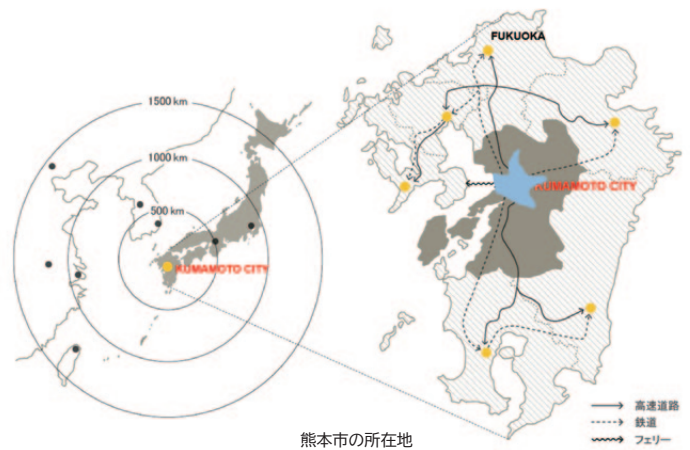
公式サイドイベント（オンライン展示会）

出展者名
日本水フォーラム
ユース水フォーラム・九州
熊本市
ハイコムウォーター株式会社
平田機工株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社 大林組
清水建設株式会社
応用地質株式会社
JFE エンジニアリング株式会社
株式会社フジタ
公益財団法人 日本下水道新技術機構
株式会社 熊谷組
前田建設工業株式会社
佐藤工業株式会社
三井住友建設株式会社
東亜建設工業株式会社
株式会社テクアノーツ（飛島建設グループ）
東急建設株式会社
阿波製紙株式会社
国土交通省 九州地方整備局
東京エレクトロン九州
太平洋共同体（SPC：Pacific Community）

熊本市のご紹介

1 熊本市について

熊本市は、東は阿蘇山、西は有明海に面しており、清らかな地下水や豊かな緑などの自然にあふれる街です。
本市は熊本のシンボルである熊本城を中心に城下町として発展し、20世紀以降は、九州の中央に位置する地理的優位性から、九州中央の拠点都市としての機能を備えています。



2 森の都、水の都、熊本。

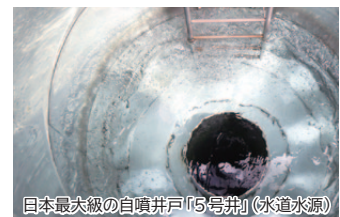
熊本市には、「水前寺成趣園」や「江津湖」など、水や緑あふれる癒しの場所が多数存在しています。
水前寺成趣園は、熊本藩主・細川家ゆかりの御茶屋に1636年に開園された桃山式回遊庭園で、国の名勝、史跡に指定されています。



また、江津湖は、上江津湖・下江津湖に分かれており、周囲は約6kmに及びます。都市の中心部にこれだけの湖があるのはめずらしいことで、遊歩道なども整備されていることから、市民の憩いの場となっています。

3 日本一の地下水都市

74万人の人口を有し、上水道のすべてを天然地下水でまかなう熊本市。人口50万人以上の都市では日本で唯一、世界でもめずらしい地下水都市です。
阿蘇山の噴火によって形成された地層は、隙間に富み、水が浸透しやすいという特徴があります。
阿蘇の山々に降り注いだ雨は大地にしみ込み、約20年かけて熊本市に達します。その間にミネラル分が溶け込み、おいしく体にやさしい天然水になります。まさに、“蛇口をひねればミネラルウォーター”という恵まれた環境にあります。



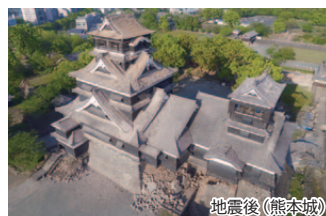
4 清らかな地下水が育む“農産物と食”

清らかな地下水をはじめとする豊かな自然に恵まれた熊本市は、米、野菜、果樹、花き、畜産など、さまざまな農産物の生産が盛んで、産出額は全国市町村中10位を誇ります(2019年)。
熊本の名物と言えば、「馬刺し」「辛子れんこん」「熊本ラーメン」などが真っ先に挙がりますが、郷土料理以外にも、自慢の水と、その水が育む農産物で作る料理は「何を食べてもおいしい!」と思っています。



5 くまもとのシンボル、復興のシンボル“熊本城”

「日本三名城」のひとつに数えられる熊本城。熊本藩初代藩主であり築城の名手として知られる加藤清正(かとうきよまさ)が、7年の歳月をかけて築いたとされる天下の名城です。
2016年4月に起きた熊本地震では、天守閣や石垣、重要文化財建造物などの多くが被害を受けましたが、復旧工事を進めており、2021年4月に天守閣の復旧が完了しました。



第4回アジア・太平洋水サミット実施組織

主 催

- ・ アジア・太平洋水フォーラム (APWF) (事務局: 日本水フォーラム)
- ・ 熊本市

* サミットの円滑な実施のため関係行政機関が必要な協力を行うことで、閣議了解

APWFの活動に協力する国際機関等 (共催機関)

- ・ アジア開発銀行 (ADB)
- ・ 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP)
- ・ 国連教育科学文化機関 (UNESCO)
- ・ 国連食糧農業機関 (FAO)
- ・ 国連人間居住計画 (UNHABITAT)
- ・ 国際アラル海救済基金執行委員会 (EC-IFAS)
- ・ 世界水パートナーシップ本部 (GWPO)
- ・ GWP 中国
- ・ GWP 中央アジア／コーカサス
- ・ GWP 南アジア
- ・ GWP 東南アジア
- ・ 水と災害ハイレベルパネル (HELP) 事務局
- ・ 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)
- ・ 国際総合山岳開発センター (ICIMOD)
- ・ 国際自然保護連合アジア支部 (IUCN Asia)
- ・ 国際水管理研究所 (IWMI)
- ・ オーストラリア水国際水センター (IWC)
- ・ 独立行政法人国際協力機構 (JICA)
- ・ 日本サニテーションコンソーシアム (JSC)
- ・ 独立行政法人日本水資源機構 (JWA)
- ・ 韓国水フォーラム (KWF)
- ・ シンガポール水事業庁 (Singapore PUB)
- ・ 太平洋共同体事務局 (SPC)
- ・ 世界トイレ機関
- ・ アライアンス フォー ウォーター スチュワードシップ アジア・パシフィック
- ・ 欧州復興開発銀行 (EBRD) 東京事務所
- ・ 淡水ネットワークー南アジア (FANSA)
- ・ オーストラリアニューサウスウェールズ大学世界水機構 (GWI)
- ・ WaterEd Australia
- ・ 水インテグリティネットワーク (WIN)
- ・ 国際連合地域開発センター (UNCRD)
- ・ アジア工科大学 (AIT)

協賛・支援団体一覧

ダイヤモンド

株式会社 肥後銀行

プラチナ

ハイコムウォーター株式会社

平田機工株式会社

鹿島建設株式会社

株式会社大林組

五洋建設株式会社

シアーズホームグループ

清水建設株式会社

大成建設株式会社

ゴールド

KM バイオロジクス株式会社

応用地質株式会社

桜十字グループ

株式会社竹中土木

シルバー

JFE エンジニアリング株式会社

株式会社奥村組

ブロンズ

株式会社浅沼組

大日本土木株式会社

株式会社エコー

株式会社フジタ

株式会社安藤・間

日立造船株式会社

岩田地崎建設株式会社

公益財団法人 日本下水道新技術機構

株式会社熊谷組

前田建設工業株式会社

西松建設株式会社

佐藤工業株式会社

三井住友建設株式会社

鉄建建設株式会社

東亜建設工業株式会社

飛島建設株式会社

東急建設株式会社

東洋建設株式会社

協力 日本政府観光局 (JNTO)

会場案内・交通情報

●会場について

<公式HP URL>

<https://4apws-kumamoto2022.jp>

<住所>

熊本城ホール

〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町3番40号

TEL : 096-312-3737

URL : <https://www.kumamoto-jo-hall.jp/>

<会場入口>

SAKURA MACHI Kumamoto 2F サクラマチ

コンコース側正面のエントランスよりご入館ください。

<会場オープン時間>

4月23日(土) 8:30-21:00

4月24日(日) 8:30-21:00

<受付>

受付にて参加登録時に発行された参加証明書を提示し、IDをお受け取りください。

IDを事前に受け取っている場合は、ご提示をお願いします。

IDの受領/確認後、手荷物検査場所での検査後、館内へと入場いただきます。

<受付オープン時間>

4月23日(土) 8:30-20:00

4月24日(日) 8:30-20:00

●サービスについて

<インフォメーションデスク>

インフォメーションデスクを 2F退出口付近 に設置しております。

<救護室>

救護室を 2F退出口付近 に設置しております。

オープン時間 : 4月23日 8:30-21:00

4月24日 8:30-21:00